

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名	連続立体交差事業 JR南武線（谷保駅～立川駅間）	事業区分	連続立体交差	事業主体	東京都
起終点	自：東京都国立市谷保 至：東京都立川市錦町			延長	約3.7km
事業概要					
<p>本事業は、JR南武線の谷保駅～立川駅間の約3.7kmについて鉄道を高架化することにより、19箇所の踏切を除却または廃止し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。</p>					
—					
全体事業費	約960億円	事業進捗率	—%	供用済延長	— km
計画交通量	238,781台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) —	総費用 (残事業)/(事業全体) —/557億円 事業費：—/554億円 維持管理費：—/3.0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) —/790億円 移動時間短縮便益：—/705億円 走行経費減少便益：—/55億円 交通事故減少便益：—/31億円	基準年	令和5年
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.3～1.6（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=—～—（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3～1.6（事業費±10%） 事業費：B/C=—～—（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.4～1.5（事業期間±20%） 事業期間：B/C=—～—（事業期間±20%）</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者、自転車の回遊性の向上 踏切の除却や矢川駅、西国立駅の立体化等により、南北市街地の行き来が容易になり、歩行者・自転車の移動が円滑化され、回遊性が向上さらに、踏切渋滞が解消されて、バスの定時性が向上 ・ 高架下空間の活用による都市機能の向上 高架下空間を利用した保育施設等の活用による住環境の向上 ・ 緊急車両のアクセシビリティの向上 踏切の除却により、救急搬送の移動時間の短縮 ・ 通学路の安全性確保 踏切の除却による、通学路の安全が確保 ・ 関連事業 鉄道沿線のまちづくり事業と一体的に進めることにより、総合的な都市基盤整備に貢献 					
関係する地方公共団体等の意見					
—					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
令和5年8月に都市計画素案説明会を実施。現在、都市計画及び環境影響評価手続を進めている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度：都市計画案及び環境影響評価書案の説明会開催予定 ・ 令和8年度：都市計画決定予定 ・ 令和10年度：都市計画事業認可取得予定 					
施設の構造や工法の変更等					
工事を実施するまでに、施工計画などにおいて工事コストの縮減を検討していく。					

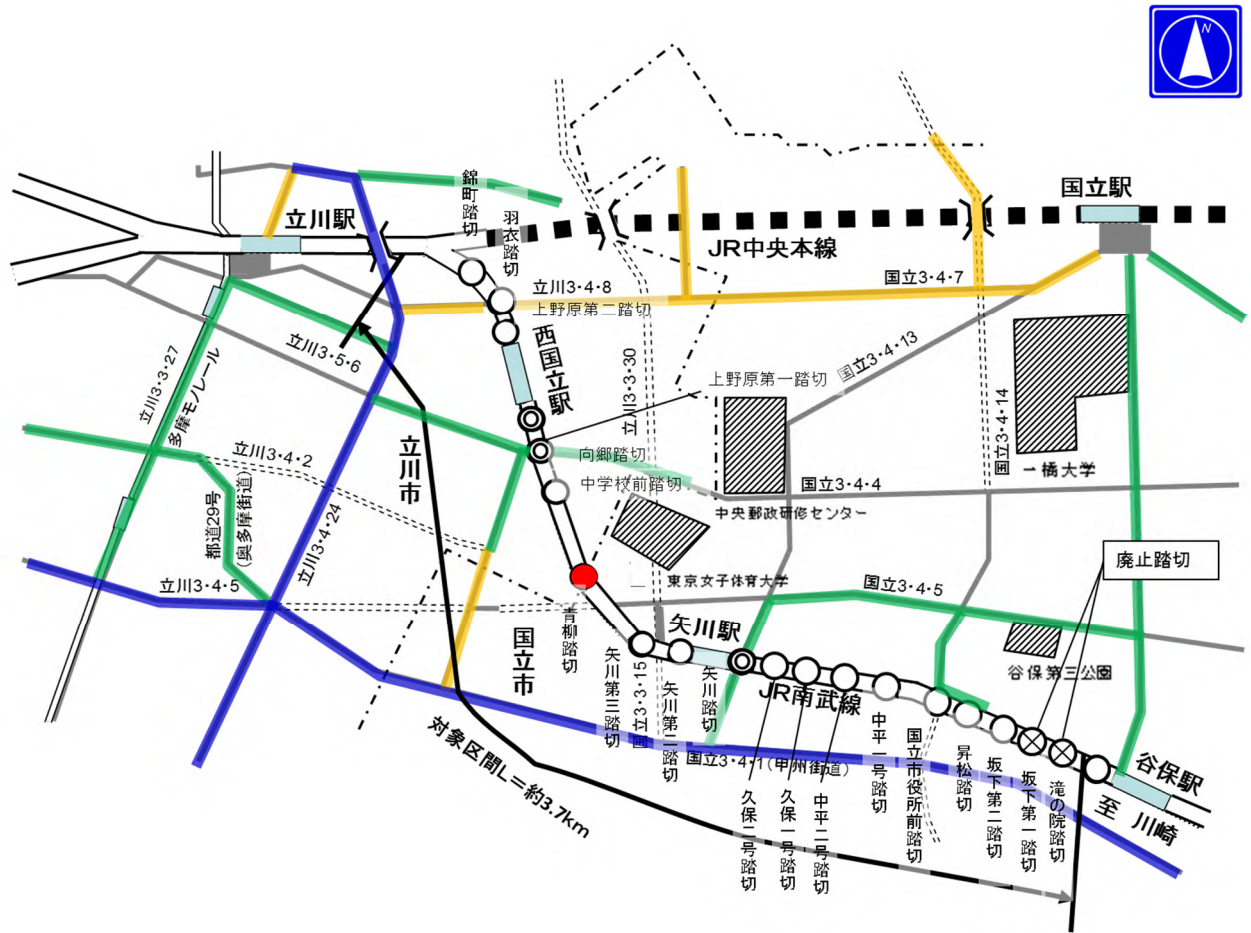
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

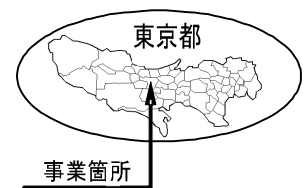
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡例

- 未整備都市計画道路
- 開かずの踏切
- その他の踏切
- ▨ 避難場所
- 鉄道平面区間
- 鉄道立体化済み区間
- ◎ ボトルネック踏切
- 第一次緊急輸送道路
- 第二次緊急輸送道路
- 第三次緊急輸送道路



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。